

● コンポスターを使ってみよう！

さまざまな生ごみ堆肥化方法の紹介

大きなバケツのようなプラスチック製の容器を使う方法で、生ごみを土に接触させて土の中の微生物やミミズなどの働きを利用します。

台所の生ごみの他、枯葉、枯草、小枝などを堆肥にできます。また、容器の大きさも様々なものがあり比較的生ごみが多く出るご家庭にも対応可能です。この方法は、現在最も普及していますが、冬は使用しにくいのが難点です。

！こんな方に向けています

- 家庭菜園やガーデニングをやっていて、安くて良質の堆肥が欲しい。
- 家族数が多く、生ごみが多く出る。

《準備するもの》

- ・ コンポスター容器…100～200ℓのものがあります。生ごみの量に合ったものを選びましょう。(ホームセンターなどで購入できます。)
- ・ 水分調整材(乾燥した、落葉・枯草・腐葉土・土など) ・ 発酵促進材または米ぬか ・ スコップ

1. コンポスターを設置する

庭の日当たりの良い場所に、水はけを良くするため、土をよくほぐしてから設置します。

犬・猫のほじくり、ハエなどの進入、風などによる転倒を防ぐため、容器の周りにしっかり土をかぶせて、足で踏み固めます。

2. 床を作る

底に10cmくらい水分調整材(落葉や土など)を入れて、その上に5cmくらい乾いた土を入れます。(微生物の活動が活発になって発酵が促進されます。)

3. 生ごみを入れる

生ごみの水をしっかり切り、細かくしてコンポスターに入れます。新鮮なものを入れましょう。生ごみにひと握り程度の米ぬかをまぶしてやると分解が早まります。

水分調整材(落葉や土など)を、生ごみと同量くらい入れます。2～3日に一度、内部に空気が入るように、スコップや棒でかくはんしましょう。

これを繰り返し、いっぱいになったら2カ月以上放置しておきます。

4. 堆肥として使う

容器を取りはずし、処理した生ごみを土と混ぜておくと1カ月くらいで良い堆肥が出来上がります。



💡ポイント

- 容器は、日当たり、水はけ、風通しのよいところに置く。
- 天気のよい日にはふたを開けて、風と太陽の光をいっぱい入れる。(このとき、入口に網をかぶせるなどして、虫の侵入に注意。)
- コンポスターを2つ用意して交互に使うと、効率よく堆肥を作れる。
- 堆肥が完熟してくると材料にかかわらず、色は黒くなって、わずかにカビくさい感じ。強いアンモニア臭や腐ったような臭いがする場合は、成熟が不十分。
- ウジムシなどが発生した場合は、石灰を投入すると効果がある。また、時々、発酵促進材を入れると臭いや虫が発生しづらくなる。
- すいかやメロンなど水分の多いものは、刻んで入れる。
- 魚のハラワタなどは、米ぬかをまぶして(唐揚げを作る時に粉をつけるような感じ)からコンポスターに入れると臭いや虫が発生しづらくなる。